

7

天  
○  
ノ  
○  
ノ  
ノ  
ノ  
ノ  
ノ  
ノ

3-0046

0200

普通  
受第 37 號  
12. 3. 9

通  
監  
理  
課

公 第 二 七 號

大正十三年 一月三十日

送 込 名

大正十三年 參月 拾九日 記録係 謹受

外務大臣伯爵内田康哉殿

「サリナクルス」港ノ現状ニ関スル件

客年九月在「サリナクルス」米國領事カ本國  
政府ニテ同港ノ報告ニヨレハ同港々口ニ廣大  
ナル Sand Bank ノ堆積アリテ船舶ノ入港ニ大  
障害ヲ與ヘ居リ 墨國中央政府ハ一度技  
師ヲ派遣シテ之ヲ調査セシメタルノニテ何  
等設備方法ヲ講ジ居ラストアリ又同領事  
ノ客年十二月ノ報告ニヨレハ米國太平洋海船  
會社モ同港々口ノ障害ニ鑑ミ桑港ハマ  
航路船「サリナクルス」寄港ヲ客年十月三  
十日限リ中止シ其結果目下同港ヘノ定期  
寄港船ハ墨國船ノトナリタル趣ナリ右  
東洋汽船ノ同港寄港廢止ニ關聯シ御  
参考迄ニ及報告候

在墨國日本公使館

敬 具

門類項

要回

移民保  
公

公 信 案

文書課長  
大正三年參月拾五日接受

文書課發送  
大正三年參月拾五日發送齊  
淨書  
校原稿  
伊藤 (淨書) 送

主 管  
通商局長  
主任  
監理課  
大正三年參月拾九日記錄係接受

通監機密  
普通第九七〇號  
大正三年二月二十五日附  
附屬書  
通

受信  
人名  
若宮通信次官宛  
井出海軍中官宛  
各通

件名  
現狀之関する件  
墨國「サリタ」大港ノ  
級込名  
各港市関係雜件

公 信 案  
外 務 省

本件ニ關シ今般在墨國古岩特原全權公使  
ヨリ別紙寫ノ通電報告有之候ニ付爲御參考  
右茲ニ及御送付候也

(別紙大正十一年一月三十日附在墨國古岩特原全權公使來信  
第二七號寫並附屬電報添付ノ事)

3-0046

0210

通商公報掲載  
大正 13 年  
速報第 120 號  
本文第 120 號

普通  
第 142 號  
13.917

門 3  
項 7  
號 1

大正十三年 七月三十一日

大正十三年拾月一日

在墨  
特命全權公使 古谷重

印

公 第 二 四  
監 理 課 廿 三

紙 添 附

古谷重

通商公報

外務大臣男爵對華系喜重即殿

墨國自由港ニ因ル報告件

別紙右報告及提出候条御査閱  
相成度候也

在墨國日本公使館

3-0046

0211

9223

墨西哥自由港ノ開設

墨西哥自由港トハ同國南部ノテウアンテ  
 ペリク地峽ニ設定セラレタルニ港トハカリフォルニ  
 引港沿岸ノソノ州ノ一港トヲ指シ就中  
 前ニ港ハ太平洋ト大西洋トヲ連絡シ西洋  
 才物資ノ中央集散地ニタラシメテトヲ自  
 的トス 特ニ地峽ノ中間ニ設定セラレタル自  
 由市ノ氣候良好ニテ交通連絡ノ便アル  
 ヲ以テ一大加工場タルニ適ス 墨國政府ハ  
 此等自由港及其ニ連絡シテ鐵道ノ及カ既  
 ニ一億ハ千萬元ノ支費セリト謂フ  
 自由港設置ハ一九二〇年九月二十四日  
 在墨國日本公使館  
 時ノ大統領 アドルフ デラウエルタ ガサリナ  
 ー (Adolfo de la Huerta) (Mexico)  
 グアイマス (Guaymas) ノ三港 及 テウアンテペック  
 ナンヨルニ鐵道沿線ノ中間ニ位スルリンコンパン  
 トニテ (Poncitlan) ト称スル地帯ヲ自由  
 港及自由市ニ設定スル大統領令ヲ署名  
 名シタルニ初マリ此等諸港ハ一九二四年  
 六月三十日ニ正式ニ開港セラレタリ 右自  
 由港ノ制度ハ諸國ニ於ケル制度ト大体同  
 一ニテ自由港ノ管理ハ五名ヨリ成ル理事  
 會ニ屬シ理事ノ中一名ヲ理事長トス 理  
 事會ハ五局ニ之ヲ細別ス 港務局 技  
 術局 法務局 會計局 交通局 變  
 更レタリ 各



97

港ニ港務局ノ指揮ニ屬スル監理官ヲ配  
 置ス港務局一般税関規則ニ支配セラルベ  
 キモ同規則ニ自由港事務ニ關シ別ニ追  
 加細則ヲ設ケタリ  
 理事會港務局ハテウアレテ、ウキ、ナシヨル  
 道ノ運用ヲ委託セラル又最近ニ英、墨、西  
 哥太平洋汽船株式會社 (Cia. Pacífica  
 Mestizana del Pacifico, S. A.) 及墨、西、哥、海  
 汽船株式會社 (Cia. Naviera Mestizana del  
 Golfo, S. A.) ノ二會社ノ航路運用ヲ委託セ  
 るタリ此ノ二航路ハ墨、西、哥自由港航運  
 線 (Proctor Lines Mestizans Lines de Navigation)  
 ナル名稱ノ下ニ經營セラルル右ニ航路ニ  
 在墨國日本公使館  
 關シテハ最初ノ自由港令中ニ間接的規定  
 ナリ有タルニ過ガザリシガ、九、四、年五月二  
 十九日附命令ヲ以テ自由港理事會ノ監督  
 理ニ屬セシムベキ事ヲ明記シタリ  
 同令中ニ「自由港開始ノ初期ニ於テハ  
 比較的閑散ナルニシテ豫測セラルル蓋シ同鉄  
 道ハ官營ニ屬シタル當時ニ毎月約七橋ノ  
 一缺損ヲ生シ居タルニナリ、同鉄道ハ初メ  
 同 Penon de Azules 稱スル英國株式會社ノ  
 所有ナリシガ、九、四、年中之ヲ解散シテ  
 官營ニ引継ガタルモトス  
 自由港向トシテ墨、西、哥、海、及、大、西、洋、航、路、  
 為、三、千、五、百、重、噸、汽、船、三、隻、ヲ、又、太、平、洋、沿、



73

岸向トシテ同噸數ノ汽船ニ隻ヲ配置スル  
 此若ニシテ五月二十日ノ命令ニ依リ此等汽  
 船ハ最初一六箇月間ハ毎月七隻五ヶ月以  
 又其ノ後一六箇月間ハ五隻以テ補助金ヲ  
 給與セラルベシ一航海ノ純益中ヨリ船長  
 ハ一割三分ノ配當ヲ受ケ其ノ残額中五  
 割ハ積立金ニ一割ハ航海擴張費ニ割  
 ハ使用人配當金トシテ分配セラルベシ太平  
 洋沿岸航路ハ現ニ実行中ノ政府保護  
 航路ト連絡経路ニシテトナルベシ。墨西  
 保護航路トハ戦争直後ニ組織セラル英  
 國會社ニシテ墨國ノ旗ヲ掲揚スル汽船航  
 路ヲ指ス、當時同會社ハ八ヶ噸(重也)乃

在墨國日本公使館

至一萬噸級ノ汽船六隻ヲ運用シタリ、  
 自由港(フエルト)マニコトハコマヤサヨアルコス河  
 内ニハ一六箇月間ノ東方終點ニ位シ港  
 内ニハ一六箇月間ノ東方終點ニ位シ港  
 三ヶ米突一六棟、三ヶ揚電氣米起重機十八  
 台ノ備付タル外軌道(ラウド)トシテ電力裝  
 置完備シ居レリ  
 サリナクルハ港ハテウアンテペリ  
 ニ位シ天然港ニテラズテ汽船米港セラレタ  
 トス港内ニハ倉庫(長サ百ニテ五米突幅二十  
 ニ米突)六棟、三ヶ揚電氣米起重機十八  
 台及兩側ニ繫船シ得ルヤ機碎土タル外  
 乾船渠一及電氣米倉置ノ設備アリ、



大平洋鉄道沿線主要停車場ノナリ。同  
 港ニ既ニ自由港トシテ一切ノ所要設備アリ。  
 リンコンメントニ自由市ニテウマンベツリノ鉄道  
 ノ沿線ニ所在ス。市ニテウマン候ノ点ヨリ  
 加工事業ニ適スル者ヲ選定シタルモト  
 ス。同地帯ハ官營鉄道系統ヲ連結スル  
 ヲエラクルノ線ト地峽鉄道トノ交又点ニ位  
 置ルヲ以テ鉄道交通ノ便利宜シキト同時ニ淡  
 水ノ設備アリ。因テウマンベツリ及ウサリウマン  
 ノ二港ヨリハ主トシテ礦物ヲ又ウマンベツリ港  
 ヲリハ蔬菜ヲ輸出ス。

在墨國日本公使館